札幌市浸水ハザードマップ 元町まちづくり連合会版

北３３条東１８丁目～
北１３条東１６丁目付近

大雨災害から身を守るためにハザードマップで
浸水の危険度や避難方法などを確認しよう!!

札幌市
令和５年１月作成

想定し得る最大規模の降雨により想定される浸水区域を**浸水の深さに応じて色を分けて表示**しています。

内水氾濫避難地図

▶下水道で雨を排水しきれず発生する浸水を想定

【浸水の深さに応じて色を分けて表示しています】

1m 以上 3m 未満	1 階部分が浸水。床上が浸水。
0.5m 以上 1m 未満	
0.3m 以上 0.5m 未満	大人のひざまでつかる。床下まで浸水。
0.3m 未満	

過去の浸水箇所
この区域内では過去に浸水が発生していますので、着色されていない場所であっても浸水の発生に十分注意してください。

内水氾濫の浸水想定の対象外区域
（下水道で雨を排水していない区域または市外）

土砂災害警戒区域
令和４年４月１日時点
洪水避難地図（右側地図）でも確認できます。

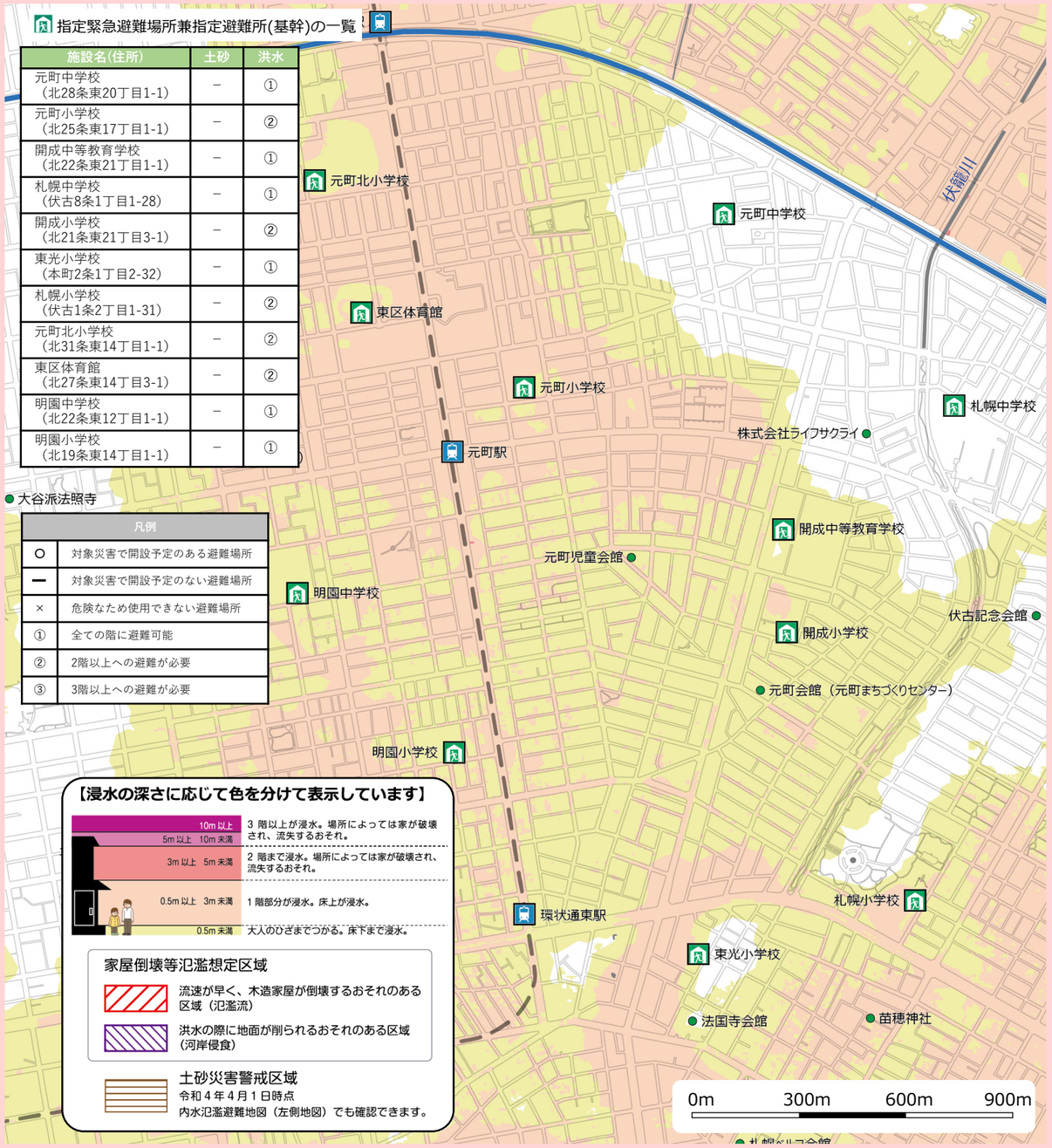
洪水避難地図

▶川が氾濫することで発生する浸水を想定

指定緊急避難場所兼指定避難所(基幹)の一覧

施設名(住所)	土砂	洪水
元町中学校（北28条東20丁目1-1）	－	①
元町小学校（北25条東17丁目1-1）	－	②
開成中等教育学校（北22条東21丁目1-1）	－	①
札幌中学校（伏古8条1丁目1-28）	－	①
開成小学校（北21条東21丁目3-1）	－	②
東光小学校（本町2条1丁目2-32）	－	①
札幌小学校（伏古1条2丁目1-31）	－	②
元町北小学校（北31条東14丁目1-1）	－	②
東区体育館（北27条東14丁目3-1）	－	②
明園中学校（北22条東12丁目1-1）	－	①
明園小学校（北19条東14丁目1-1）	－	①

凡例	
○	対象災害で開設予定のある避難場所
―	対象災害で開設予定のない避難場所
×	危険なため使用できない避難場所
①	全ての階に避難可能
②	2階以上への避難が必要
③	3階以上への避難が必要



【浸水の深さに応じて色を分けて表示しています】

10m 以上	3 階以上が浸水。場所によっては家が破壊され、流失するおそれ。
5m 以上 10m 未満	
3m 以上 5m 未満	2 階まで浸水。場所によっては家が破壊され、流失するおそれ。
0.5m 以上 3m 未満	1 階部分が浸水。床上が浸水。
0.5m 未満	大人のひざまでつかる。床下まで浸水。

家屋倒壊等氾濫想定区域
- 流速が早く、木造家屋が倒壊するおそれのある区域（氾濫流）
- 洪水の際に地面が削られるおそれのある区域（河岸侵食）

土砂災害警戒区域
令和４年４月１日時点
内水氾濫避難地図（左側地図）でも確認できます。

避難場所の凡例

指定緊急避難場所兼指定避難所(基幹)	指定避難所(地域)
▸ 災害から身を守るために緊急的に避難する場所です。災害の種類ごとに指定しています。 ▸ 災害の危険性がなくなるまで一定期間滞在などする指定避難所（基幹）を兼ねています。 ▸ ☒ は洪水・土砂災害時に使用できません。	▸ 指定避難所（基幹）を補完する施設であり、状況に応じて開設されます。

※令和4年9月1日時点の避難場所の情報を掲載しています。最新の情報はこちら。

札幌市 避難場所 検索

避難地図の使い方

❶ 自宅 などの位置を確認し、○をつけましょう。
❷ 最寄りの指定緊急避難場所 を確認し、○をつけましょう。
❸ 避難経路をいくつか設定しましょう。

避難経路設定のポイント

▶できるだけ川や崖の近くは避難経路にしないようにしましょう。
▶川から離れていても内水氾濫により、浸水する可能性があります。内水氾濫避難地図（左側地図）も見て、できるだけ浸水が想定されない経路を設定しましょう。

自宅などの内水氾濫・洪水・土砂災害の危険度を把握し、避難の方法を確認しましょう。

1 内水氾濫避難地図（左側地図）で内水氾濫の危険度を把握しましょう。
A｜浸水の深さより居室が高い。 → ☑ はい ☑ いいえ

2 洪水避難地図（右側地図）で洪水の危険度を把握しましょう。
B｜浸水の深さより居室が高い。 → ☑ はい ☑ いいえ
C｜家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流 河岸侵食）に入っていない。 → ☑ はい ☑ いいえ

3 避難地図（両側地図）で土砂災害の危険度を把握しましょう。
D｜土砂災害警戒区域（ ）に入っていない。 → ☑ はい ☑ いいえ

4 避難の方法を確認しましょう。

☑ **A～Dがすべて「はい」**
水が引くまでとどまることができ、備えが十分であれば在宅避難が可能です。

☑ **ひとつでも「いいえ」がある**
自宅などにとどまることは危険です。避難情報が出た場合や周辺が浸水するなどして身の危険を感じた場合は、速やかに指定緊急避難場所や親戚・知人宅などの安全な場所へ避難しましょう。